

令和 4 年度事業報告

法人事業報告

1. 法人事務局の運用体制の確立

主な業務	下半期の計画	令和 4 年度の報告
①社会福祉法人として地域福祉の責任ある担い手であることを自覚し、その業務の透明性と計画性を明らかにするため、各事業所への巡回を定例化することで状況を的確に把握し、経営改善のための方策を講じる。	施設会議への参加を継続するとともに、経営改善のための取り組みに協力する。	巡回という形では定着させられなかったが、下半期以降各事業所・各業務担当グループの会議には極力参加するようにすることで、状況把握が進み、会議の場にいることで少ないながらも必要な提案ができた。
②電子データを含む文書の整理と保全に取り組み、情報管理をより確実なものとする。	他の施設についても可能な限り年度内に設置する。	各事業所の電子データのバックアップ状況を確認、施設長会議で共有するにとどまった。 法人事務局に設置して全体のバックアップを取る機器を購入したが、設置する時間が確保できなかった。
③各業務担当グループをリーダー会議での進捗管理を通じて統括し、各グループが適切に連携し、また意思決定できるようにする。また、各グループが過負荷とならないように調整する。	優先すべき事項なので、会議の冒頭で確認するように改めるよう、リーダー会議に提案する。	各事業所の進捗についてはリーダー会議冒頭で確認するように改め、的確な状況把握が可能になり、諮るべきことは上の会議体へ上げる流れが定着してきた。
④事業計画の PDCA サイクルを滞りなく回すために、年間の業務スケジュールを確立する。	遺漏がなくなるように定型業務を随時入力していく。	Google カレンダーのタスク管理機能を活用し、定型業務を入力することで、概ね遺漏なく業務を遂行できるようになってきた。
⑤年度内に月次決算が実施可能な体制を確立する。	法人本部事業報告<事務局>重点目標①に記載。	法人本部事業報告<事務局>重点目標①に記載。

2. 人材確保と新規事業の検討

主な業務	下半期の計画	令和 4 年度の報告
①各事業所の業務内容を法人理念や利用者利益の視点から見直し、課題を整理する。	中期目標を下に来年度の事業計画案を立案する。	策定が遅れていた令和 5 年度～9 年度中期目標を第 3 回理事会に諮り、承認された。 令和 5 年度事業計画立案にあたっては、中期目標を

		意識しての策定を依頼することで、連続性のある事業計画を策定することができた。
②法人本部において必要な人員のサポートを素早く行えるように管理及び提案を行う。	来年度の人員配置を見据え、必要に応じて人員補充を提案・実施する。	アゼリアでピアスタッフ2名、電話相談員1名採用し、人員を充足することができた。 第1で育休代替の職員を採用した。

3. 職責に見合った人材の育成

主な業務	下半期の計画	令和4年度の報告
①中長期的な視点から計画的に研修やOJTを実施し、将来及び現在の職責に見合った人材の育成を図る。	人材育成担当グループの報告に記載。	人材育成担当グループの報告に記載。
②各事業所だけでなく法人本部からも職員に必要な研修が実施されているか管理及び提案を行う。	来年度に向けて研修管理のあり方を検討する。	都精神保健福祉センター主催の研修申し込みについて、上半期・下半期ともに不備があった。来年度は必ずリーダー会議内で共有し、申し込み漏れがないようにしていく。

4. 障害の特性や多様性に対応した支援の提供

主な業務	下半期の計画	令和4年度の報告
①計画相談や個別支援計画で明らかになる多様な利用者ニーズに応えることができるよう地域支援のネットワークを広げ、会議や勉強会等も積極的に参加、開催する。	引き続き会議やネットワークに参加し、職員が利用者対応について考える様々な機会を設ける。	福祉サービス利用のための個別支援をもとに、荒川区主催、東京都主催など、支援者として視点を切り替えつつ研修や事例検討、会議に参加した。事業所内でのフィードバックも積極的に行っている。
②地域の利用者ニーズに答えることができるように、新規事業を検討する。	中期目標を下に検討を進める。	十分には検討できなかった。令和6～7年度に向けて令和5年度には情報収集と検討を始めたい。

5. 法人の事業や歴史の地域への還元

主な業務	下半期の計画	令和4年度の報告
①トラムあらかわの実践で得た人材や支援の成果を講座や勉強会として地域に還元し、その取り組みを	<広報・地域福祉担当グループの報告に記載>	<広報・地域福祉担当グループの報告に記載>

様々な形で発信していく。(広報・地域福祉の取り組み)		
②自立支援協議会や地域移行部会や地域生活支援拠点ワーキンググループへの参加を通して、行政が進めている地域包括ケアシステムの構築に貢献する。	今年度は多摩地域の病院へのニーズ調査を行い、少しでも多くの方の話を聞けるように取り組んでいく。	多摩地域の病院にて4名の方と面談ができた。 また、今までの地域移行事業を利用した方の分析を行い、成功事例10ケースの状況を部会で共有を行った。
③広報担当グループを中心に法人20周年事業を実施する。	地域福祉担当グループが企画している20周年記念講演会を開催する。	法人設立前後にご支援いただいた方々からお話をうかがい、法人の歴史とこれからの記念号にまとめ、お菓子のギフトボックスとともにお世話になった皆様にお届けすることができた。 1月には20周年記念講演会として、ヤングケアラーをテーマに会場とオンラインのハイブリッド型で開催。38名にご参加いただき、ヤングケアラーについて考えるきっかけを作ることができた。

6. 法人の事業継続のためのBCPの作成・運用

主な業務	下半期の計画	令和4年度の報告
①昨年度安全衛生担当グループが作成したBCPの運用を開始し、見えてきた課題を計画に反映させていく。	安全衛生グループの報告に記載。	安全衛生グループの報告に記載。
②感染症版BCPの運用を開始することで、緊急時に的確な対応がとれるようにする。	安全衛生担当グループの報告に記載。	安全衛生担当グループの報告に記載。

法人本部事業報告

<事務局>

重点目標

目標	下半期の計画	令和4年度の報告
①会計の月次決算を着実に実施していくための体制を確立する。	新たな仕組みをミスなく、着実に実施していき、来年度の決算の月次化につなげる。	各事業所の職員が適切に出納帳を運用してくれることで、会計システムへの入力に要する時間を大幅に短縮することができた。
②リーダー会議を通じて業務担当グループを統括し、適切に連携・意思決定できる体制を構築する。	リーダー会議の冒頭で共有するようにする。	上半期までは業務担当グループの状況を十分に共有できていなかったが、下半期に優先順位を変えてからは状況が把握でき、意思決定もスムーズにできるようになった。
③月次報告書と課題解決シート、各事業所への定期的な巡回や会議への参加を通じて運営状況を把握し、改善のための具体的な手段を検討・提案する。	会議参加を継続することで、各事業所の状況と課題の把握に努める。	下半期以降施設と業務担当グループの会議全てに極力参加するようにしたことで、前年度に比べて状況の把握が進んだ。 また、会議の場にいることで必要な提案をできる場面もあった。
④年間の業務スケジュールを確立することで、事業計画などのPDCAサイクルを回せるようにする。	スケジュール管理は必要十分な状態になりつつあるが、業務の標準化が不十分なため、来年度以降に向けて業務の切り出しや引き継ぎが可能な状態にしていく。	Google カレンダーのタスク機能を活用することでスケジュール管理は確立しつつあるが、業務の標準化には全く取り組めなかった。
⑤各施設のデータバックアップの仕組みを整え、データ保全を確実なものとする。	高価な機材なので購入前に再度間違いないか確認した後発注、設置する。	各施設のバックアップ状況を確認し、法人事務局に設置するバックアップ機器を購入したが、納期の遅れと多忙のため設置できなかった。各施設も含めて、令和5年度中の設置を目指す。

<人材育成担当>

主な業務

①業務目標/成長シート管理 ②研修管理 ③職員業務目標管理 法人業務担当グループ管理 ④実習管理 ⑤書記(理事会・評議員会)

重点目標

目標	下半期の計画	令和4年度の報告
①シート管理：効果的な運用のため、評価・面談スキル向上を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 抽出された課題の改善に取り組む。 人事考課についての学習機会を、再度検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 成長シート(修正版)を完成させ、年度末に運用できた。 人事考課についての研修は多忙のため実施できず、来年度の課題。 各事業所での成長シート記入が遅れ、評価会議が実施できず。そのため、最終評価を出す際に浮かび上がった問題への対処に、十分な議論ができなかった。 成長シートの課題(評価、フィードバック等)が挙がり、今後の運用方法について施設長会議に相談しながら検討中。
②研修管理：法人全体の支援・ファシリスキル向上のため、計画的かつ効果的な事例検討を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 研修で学んだ検討法を用いて、12月・2月法人会議で事例検討を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修で学んだ手法を用いた法人研修(事例検討)を2度実施できた。
③担当グループ管理：業務負担軽減や目標達成サポートのため、各グループと各事業所の状況把握を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 各グループの課題について検討を継続する。 各事業所/グループの状況把握の検討を継続し、適切な方法で実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 議題の優先順位を上げ、毎月の実施を継続できた。 各グループの状況把握に絞ったことで、会議時間内で毎月実施できた。
④実習管理：担当者一人に負担が集中する体制を改善するため、業務の効率化や分担制の導入を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の管理方法を振り返り、改善点を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 人員体制が整ったため、今年度は1人体制で担当した。次年度も同様に行う予定。

<広報担当>

主な業務

①トラムレター発行(令和4年度は法人20周年記念号も発行する) ②ホームページ管理・動画コンテンツ発信 ③「日本ではじめて地域の家族会を築いた男」のPR(令和4年度は法人20周年記念号に吸収)

重点目標

目標	下半期の計画	令和4年度の報告
①ホームページを見る人を意識し、「見やすさ」「早さ」「正確さ」に特に力を入れて取り組む。	ボランティア募集の案内ページを今年度中に刷新する。 【今後のスケジュール(予定)】 12月:各事業所での受け入れの流れを整理。 1月:案作成、レイアウト検討 2月:修正 3月:ホームページ更新(遅くとも4月1日には)	「見やすさ」については改善できた。「早さ」と「正確さ」については更新の遅れやミスがあったため、引き続き改善に取り組む。 ホームページのボランティア募集について、募集しているのは現状ではアゼリアのみ。求人募集のような形で掲載するという方向性を定めたが、内容の刷新は令和5年度に持ち越しとなった。
②広報されていない事業・活動の報告(法人事業担当グループ、法人全体研修、法人職員の対外活動など)も積極的に動画コンテンツも活用しながら行う。	1月に行われる「トラムあらかわ20周年記念講演会」の広報に取り組む(トラムレター、ホームページ)。 動画コンテンツの活用については引き続き検討する。	・これまで取り上げなかったものを意識したものとしてはトラムレターの紙面に「トラムレターの歴史(4月号)」「トラムちゃん誕生秘話(5月号)」「ひまわり第2インスタグラム(6月号)」「アゼリア緑のカーテン(7月～11月号)」のほか、非常勤職員も含めた法人職員の紹介(『トラム職員に聞く12の質問』)を連載し、様々な角度から法人紹介が出来た。 ・20周年記念講演会に関してはトラムレター11月号とホームページに案内。講演会当日の様子はトラムレター3月号に掲載し法人としての取り組みを後方支援できた。 ・法人全体での動画コンテンツに関しては取り組めなかった(アゼリアで行っている明治安田こころの健康財団の共催講座は継続中)。令和5年度に持

		ち越し、引き続き検討する。
③20周年記念号（トラムレター9月号を予定）を発行し、当法人が大切にしていることを伝える。	全体の構成から記念号には外した内容の記事を11月号以降に掲載していく（『記念号年表には載せられなかったシリーズ』）。	設立当時の関係者の皆様のご協力もあって、無事記念号を発行することができた。発行に関する反響や20周年に対するお祝いも各方面からいただいた。 また、『記念号に載せられなかったシリーズ』をトラムレター11月号と1月号に掲載した（当時の流行など紹介）

<地域福祉担当>

主な業務

①精神保健福祉の普及啓発 ②民間、関係諸団体との繋がりづくり ③ボランティア関係のサポート、活動機会の創出 ④地域福祉ニーズの情報収集

重点目標

目標	下半期の計画	令和4年度の報告
①地域の交流や講座等に積極的に参加・開催し、地域とヒトをつなぐ支援構築を目指す。	1/14(土)に法人20周年記念講演『ひとりぼっちにさせない～ヤングケアラーについて一緒に考えよう～』を開催する。	社協に協力していただき、アクロスあらかわを会場として対面とZOOM配信のハイブリッドで開催。38名の方にご参加いただいた。
②精神保健福祉の普及啓発を当事者と共に行い、共生社会の実現を目指す。	11月、12月に町屋ふれあい館との交流事業(全3回)を予定。法人利用者にも協力依頼し、ともに取り組んでもらう。	体験発表では5名の利用者、児童とのワークショップでは4名の利用者に協力いただいた。来年度実施に向け、交流事業の目的について改めてふれあい館と確認、共有を図った。
③社会福祉法人連絡会出席のほか、官民の垣根を越えた連携・協働を図り、荒川区の地域福祉向上を目指す。	引き続き法人理念である「ひとりぼっちにさせない」を地域で実践するためのアウトリーチについて検討していく。	法人連絡会の出席はなし。パントリー事業では行政(社協、区役所)と連携しながら対象者支援にあたった。

<安全衛生担当>

主な業務

①健康診断管理 ②食品・衛生管理 ③安全管理 ③BCP

重点目標

目標	下半期の計画	令和4年度の報告
①職員及び利用者の健康診断を計画的に実施する。	・健康診断の実施状況をまとめ、課題を抽出する。	・受診状況、受診結果へのアプローチ状況について整理し課題をまとめた。課題解決に向け、改善案を作成した。(重点目標②に記載)
②職員及び利用者の健康経営改善に取り組み、法人全体の労働生産性を向上させる方法を検討していく(感染症予防や食品衛生実務講習会受講)。	・改善案(メンテナンス休暇・非常勤職員の健診)をまとめ、リーダー会議へ提案する。 ・承認された場合、当該案を実施する	「自分のからだの声を聴こうプロジェクト」の提案。次年度からの運用開始となった。
③各施設の「事故を防ごう！報告表」を管理し、再発防止策を講じた後の経過観察をしていく(毎月の法人会議で定例会を行う)	・新たな管理/活用法を定着させる。 ・感染症対策も兼ねたツールとして完成させ、全体にも周知する。 ・必要な防犯対策、安全確保の強化を行う。	・各事業所での活用が定着していることを確認。それに伴い、グループでの定期確認は終了。 ・感染症、繰り返す事案の改善に対しても対応するシートを次年度より運用開始。 ・防犯に関する法人研修の次年度実施を計画中。
④各施設の防災訓練スケジュールを管理し、コロナ禍でも職員と利用者が訓練できる仕組みを確立していく。職員間での防災訓練の情報発信を強化し、現BCPのブラッシュアップを図る。	・法人共通の防災訓練第2弾の実施。 ・職員全体でBCPを共有し、ブラッシュアップする。 ・今年度の取り組みを振り返り、来年度にむけた仕組み作りを行う。	・共通防災訓練を2回実施(ホームを除く)。事務の効率化・法人共通の強化を図れた。 ・各事業所で取り組むのは難しいことを確認。次年度以降は法人研修にブラッシュアップの場を設定することで、定期的を実施する。
⑤BCPの運用を行いながら安全衛生グループで各施設の訓練に参加し、内容の検討を行って行く。防災備蓄の管理の仕方について再検討していく。	・感染症版BCPを作成する。 ・職員全体でBCPを共有する。	・3月に感染症BCPの作成完了。 ・次年度以降、内容の共有・ブラッシュアップは上記の通り法人研修で定期的を実施する。

施設事業報告

<荒川ひまわり>

重点目標	下半期の計画	令和4年度の報告
<p>①主たる事業所(荒川ひまわり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全な環境の元、生産活動の売上の維持向上に努める。 ・新規利用希望者の受け入れを再開する。 ・内職/施設外作業を安定的に確保し、やりがいや楽しさを感じる運営を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・上半期の取り組みを継続。 ・現場に即した新規利用者の受け入れを検討。(施設外希望者) ・やりがいや楽しさを感じてもらえる具体案をまとめ、実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な環境を整えながら、前年比+128万の工賃支給ができた。 ・施設外希望者の受け入れを再開するも、新規登録はなし。(登録日に登録キャンセル1名) ・新たな作業(コーヒー)を企画調整中。来年度からの本格実施を目指す。
<p>②従たる事業所(パウンド屋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全で衛生的な基準を満たした環境を保ち生産活動の売上の維持向上に努める。 ・地域のニーズや利用者のやりがいに対応した安全で新しい商品作りを行う。 ・新規利用希望者の受け入れを再開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・上半期の取り組み継続。 ・コロナでなかったイベント販売参加、店舗でのキャッシュレス決済を導入。 ・現場に即した新規利用者の受入を検討。(パウンド屋希望者) 	<ul style="list-style-type: none"> ・上記と同様。 ・イベント販売は積極的に参加し、メンバー商品の開発・PRや店頭販売(キャッシュレス決済、ショーケース・店内レイアウト)の強化も行った。 ・パウンド屋希望者の受け入れを再開するも、新規登録はなし。
<p>③就労定着支援(ジョブサポート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者の生活と就労がその人らしく継続的に安定するよう支援を行う。(企業・自宅への訪問、来所支援、関係機関との連絡調整、障害者理解の促進等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援体制に見合った、支援範囲/方法を検討し、継続的で安定した支援の確立を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各業務を一人で対応することが大半となっている現在の支援体制で行える範囲を本人・企業・他支援者と共有し、連携や分担を意識したチーム支援を目指せるようになった。また、事業所内会議でもケース検討を行い、抱え込まないよう工夫した。
<p>④危機管理体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種BCP(事業継続計画)に沿った設備備品の確認、状況に適応した早急な見直しを行う。 ・施設運営上の体制整備(運営管理・利用者支援・会計経理・虐待防止・事故防止等)が適切に運用されているか確認を行い、不備をなくす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全衛生グループの指示に従い、各種BCPの確認/見直しを実施。 ・第三者評価を通した、確認/修正を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施できなかったが、来年度以降は安全衛生グループによる定期実施を定めることができた。来年度からは法人全体で遺漏なく実施できる予定。 ・第三者評価の結果はおおむね良好。更なる改善へのアイデアの実行を来年度検討する。(ICT導入など)

利用者支援	下半期の計画	令和4年度の報告
<p>①就労継続支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味や意欲をもって通所を目指せる相談支援や余暇活動を含めた活動の提供を行う。 ・就労に向けた具体的な取り組みを他機関と協働し、就労につなげる支援を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10月より月1回プチレクを実施。 ・アンケート結果を参考に、スキルアップ研修を月に実施。 ・就労に関する様々な機会の周知環境を整備し、機会と本人をつなげる機能を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新プログラムとしてプチレク(アルファビクス)を毎月1回計6回実施した。 ・就労に関する情報を掲示するスペースを整理し、他機関の情報掲示を強化した。
<p>②個別支援計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者一人一人の気持ちに寄り添った個別支援計画を策定し、定期アセスメントを行う。 ・定期的な支援会議を開催し、支援内容の共有を行うとともに支援の質の向上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援会議(毎月)の実施を定着させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画策定やアセスメントの際、より本人の気持ちに寄り添える方法や環境を各担当者と適宜相談しながらすすめられた。 ・毎月設定していた個別支援会議は多忙のため実施できなかった。来年度は優先順位をあげて取り組む。
<p>③就労定着支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就労に伴う不安や生活面の課題の解消を目指した支援を行う。 ・個人と企業との円滑な関係を保つ支援を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援会議を実施し、改善を図る。 ・個別支援会議では、本人への支援内容に加え、関係者への支援内容についても共有/検討を行う。 	<p>(重点目標③の報告と同様)</p>

◆令和4年度荒川ひまわり実績報告

常勤換算職員数

5.5

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
定員	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	360
登録者(月初現在)	33	31	32	35	34	34	34	33	33	33	34	34	400
開所日数	20	19	22	20	20	20	20	20	20	18	19	22	240
延べ利用者数	419	370	489	449	423	471	432	424	439	394	426	467	5,203
見学	1	2	0	0	0	2	1	1	1	3	0	2	13
体験	1	2	2	1	0	0	1	1	1	1	1	0	11
登録	0	1	1	2	0	0	0	0	0	1	0	0	5
入院中	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	4
退所(ステップアップ)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退所(その他)	2	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	4
授産売上	584,246	607,870	817,277	625,445	623,257	680,437	771,229	855,093	1,005,846	483,389	551,201	526,172	8,131,462
平均工賃	14,380	15,414	19,962	15,211	15,333	15,187	20,265	22,195	23,109	11,025	11,771	15,645	199,497
就労準備者	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
就労実績	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
通所率	63%	63%	69%	64%	62%	69%	64%	64%	67%	66%	66%	62%	65%
収入	3,728,910	3,346,904	4,298,384	3,674,724	4,140,321	4,151,078	3,929,654	3,835,832	3,846,563	3,778,971	3,633,921	4,268,787	46,634,049
うち就労定着支援	119,916	119,916	119,916	119,916	119,916	236,913	155,891	175,346	155,891	175,346	155,891	155,891	1,810,749
うち処遇改善加算	182,892	163,631	211,587	180,162	204,773	198,733	0	357,617	209,746	163,308	272,082		2,144,531
うち特定処遇改善加算	57,564	51,505	66,593	56,708	64,446	62,591	0	112,605	66,054	51,439	55,027		644,532
一日あたりの収入	186,446	176,153	195,381	183,736	207,016	207,554	196,483	191,792	192,328	209,943	191,259	194,036	194,309
職員一人あたりの収入	677,984	608,528	781,524	668,132	752,786	754,741	714,483	697,424	699,375	687,086	660,713	776,143	706,577
人件費	2,045,950	1,608,018	3,856,300	1,702,322	1,899,294	1,884,886	1,891,608	1,891,608	4,555,968	1,935,666	2,001,493		25,273,113
人件費率	54.9%	48.0%	89.7%	46.3%	45.9%	45.4%	48.1%	49.3%	118.4%	51.2%	55.1%		54.2%
特記支出(家賃など)	450,000	450,000	450,000	450,000	450,000	450,000	450,000	450,000	450,000	450,000	450,000		4,950,000
主な支出	2,495,950	2,058,018	4,306,300	2,152,322	2,349,294	2,334,886	2,341,608	2,341,608	5,005,968	2,385,666	2,451,493	0	30,223,113
月別収支差額	1,232,960	1,288,886	-7,916	1,522,402	1,791,027	1,816,192	1,588,046	1,494,224	-1,159,405	1,393,305	1,182,428	4,268,787	16,410,936

◆前年度比

	合計	前年度	前年同月比
定員	360	360	100.0%
登録者数(月初)	400	442	90.5%
開所日数	240	239	100.4%
延べ利用者数	5,203	6,902	75.4%
見学	13	8	162.5%
体験	11	2	550.0%
入所	11	2	550.0%
退所	5	2	250.0%
授産売上	8,131,462	8,579,521	94.8%
通所率	65%	78%	83.0%
収入	46,634,049	52,132,890	89.5%
うち就労定着支援	1,810,749	416,964	434.3%
一日あたりの収入	194,309	218,129	89.1%
人件費	25,273,113	29,034,240	87.0%
人件費率	54.2%	55.7%	97.3%
主な支出	30,223,113	34,482,240	87.6%

◆所感・今後の方針

<利用状況について>

年度内は5名の登録者と4名の退所者があったが定員を下回ることなく、平均登録者は33名であった。就労希望者は存在したが、就労には至らなかった。一日あたりの来所者数は20人/日と平均的な数値を保てた。見学希望者もコロナ禍前の状況に戻りつつある。現場の状況(職員・作業・施設規模)から35名を登録数の上限とした。

<収入について>

安定的な通所率から賞与月以外の赤字を出すことはなかった。昨年度の就労者による加算が給付収益に寄与している。急な欠席対応などに追われることがあるものの、施設外作業のメンバーシフト制や作業ごとにメンバーの役割を設定することで通所率の安定につながった面も大きいと考えている。

<支出について>

賞与月の月次時点での赤字はあるが、年度での収支では法人への繰り入れができる結果を出すことが出来た。法人内の収益を下支えする通所施設として次年度も通所率の安定を確保したい。

<就労支援事業収益について>

昨年同程度の売上を確保することが出来た。今年度の平均工賃は15000円/月を越え、次年度の給付単価1ランクアップする結果を出すことが出来た。

<その他>

主・従の別れた事業所環境に併せ施設外就労(企業内)作業を行ってきた。担当する職員達が責任を持ち業務にあたってくれたことは高く評価したい。第三者評価が総合的に高評価であったのも職員の日々の活躍が大きい。

<荒川ひまわり第2>

重点目標	下半期期の計画	令和4年度の報告
<p>①工賃の維持向上に努める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策を強化しながら生産活動の売上の維持向上に努める。 ・就労継続支援B型は、平均工賃月額1万円以上を維持し、利用者満足と運営の安定をはかる。 	<p>引き続き感染症対策をしながら売上向上に努める。ふるさと納税の返礼品への出品を検討する。スイーツボックス2023を今年も実施する(3月分は、縫製の自主製品バッグを使用する。)</p>	<p>就労継続支援B型の平均工賃は10800円代で令和3年度より微増、目標の平均工賃1万円以上は維持できた。スイーツボックスは90セット完売。ふるさと納税へのエントリーは次年度持ち越し。</p>
<p>②利用者がはじめやすい環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域生活における様々な不安や体調の不安定さに対して、相談により解消に向けて一緒に考え、通所につながるように支援する。 ・就労B型のニーズ増に合わせて、定員枠をはじめとした運営内容を検討する。 	<p>利用者の生活支援については引き続き力を入れていく。就労B型のニーズ増への対応について、法人内の協力を得ながら、運営内容を検討する。(定員変更か、運用方法による対応か協議する)</p>	<p>運営内容は、東京都と協議する中で多機能型を断念した。自立訓練事業は令和5年4月末で廃止、5月から就労B型事業に一本化することになった。今後は、地域生活を長期的なつながりの中で支援できる就労B型の特色を生かして、居場所としての機能を強化していく。</p>
<p>③地域社会の一員として信頼される施設運営を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止・身体拘束の禁止・BCP整備等の様々な安全上の制度を、法令に沿って運用する。 ・研修や問題意識の共有により、職員の意識啓発を継続する。 	<p>引き続き、定期的に迅速な課題共有体制を維持する。特に下半期は授産の繁忙期や、次年度の運営内容の検討等で、多忙になるため、利用者の細かな変化の見落としがないように努め、安全の維持を図る。第三者評価結果を、業務改善に生かす。</p>	<p>第三者評価において、水害リスクと業務効率化の両面で情報システムの構築やクラウド活用等をすすめるように指摘を受けた。データのクラウド化は法人事務局と今後進める。毎朝の朝礼で日々の作業や利用者の変化等の情報共有をし、月1回の職員会議で経営状況推移の共有や、プログラム検討、利用者への支援方針共有ができたので、次年度以降も継続する。</p>

	利用者支援	下半期の計画	令和4年度の報告
生産活動	作業において社会との繋がりを意識し、やりがいと責任感を感じられるよう支援する。	地域イベントが再開される傾向にあり、利用者と共に販売へ参加することで地域への発信と、菓子販売の顧客獲得へ繋げる。感染対策は十分しながら、レクリエーションの希望に答え	作業中の会話やミーティングで利用者からレクの要望が多く、3月下旬に花見を実施した。次年度は利用者間や地域との交流を広げられるようなプログラムを、ニーズに応じて実施す
	企画や受注段階での利用者の関わりを増やし、積極的に作業に参加していただく。		

	新規案件に積極的に取り組み、感染症対策と売り上げの維持を両立する。	る。	る。
個別支援計画	生活訓練で、基本的な生活習慣(生活リズム、身だしなみ等)が身に着く支援を強化する	利用者のニーズや各人の状況に応じ、就労移行支援施設見学や、しごと財団の職場体験実習面接会への参加、他のB型施設利用の検討、等を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・就労移行施設の見学を6月(WEL'S)と11月(メルディア)の2回実施できた。職場体験実習面接会は11月に2回同行、採用には至らず。 ・通所のモチベーションが低下した利用者へは、他のB型や地活へつなぐ等の対応中。
	休みが続いている利用者への支援を強化する。定期的な電話連絡等で繋がりを継続する。		
	外部機関の見学や訓練等を活用して、施設外の社会へつながる視点を大切にする。		

◆令和4年度荒川ひまわり第2実績報告

常勤換算職員数

6

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
定員	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	240
月初登録者(B型)	32	32	33	34	34	34	35	35	35	36	35	34	409
月初登録者(生訓)	8	8	10	9	10	10	9	8	7	6	6	6	97
開所日数	20	19	22	20	20	20	20	20	20	18	19	22	240
延べ利用者数(B型)	244	248	290	232	243	262	272	265	273	249	295	317	3,190
延べ利用者数(生訓)	73	75	76	75	90	89	86	82	58	39	44	59	846
見学	2	2	0	0	0	0	2	2	1	0	3	1	13
体験	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
入所	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	1	5
入院中	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	0	0	9
退所(ステップアップ)	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
退所(その他)	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	1	1	5
授産売上	467,005	407,409	406,078	422,697	412,188	523,701	525,950	676,451	752,593	496,836	495,569	616,049	6,202,526
平均工賃額	B10314/生5468	B9648/生5252	B9403/生4714	B9953/生6297	B8728/生7579	B8530/生6562	B10141/生8347	B13173/生10828	B13994/生10921	B10760/生8361	B10915/生5624	B12560/生8111	B10677/生7339
就労準備者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
就労実績	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
通所率(B型)	38%	41%	40%	34%	36%	39%	39%	38%	39%	38%	44%	42%	39%
通所率(生訓)	4.6%	4.9%	3.5%	4.2%	4.5%	4.5%	4.8%	5.1%	4.1%	3.6%	3.9%	4.5%	4.3%
収入	2,718,825	2,858,966	3,127,676	2,587,429	2,897,220	2,702,885	91,088	6,424,855	2,899,059	2,399,304	2,899,295	6,743,478	38,350,080
うち処遇改善加算	144,801	152,224	165,497	137,435	155,314	151,893	5,012	422,018	151,086	122,665	150,274	153,831	1,912,050
うち特定処遇改善加算	57,701	60,477	63,980	53,993	63,585	60,784	1,581	139,856	57,201	43,365	56,354	58,284	717,161
一日当たりの収入	135,941	150,472	142,167	129,371	144,861	135,144	4,554	321,243	144,953	133,295	152,594	306,522	159,792
職員一人あたりの収入	453,138	476,494	521,279	431,238	482,870	450,481	15,181	1,070,809	483,177	399,884	483,216	1,123,913	532,640
人件費	2,517,581	1,753,635	4,403,240	1,820,410	1,767,838	1,667,749	1,853,647	1,860,016	4,453,311	1,829,586	1,762,724	5,561,839	31,251,576
人件費率	92.6%	61.3%	140.8%	70.4%	61.0%	61.7%	2035.0%	29.0%	153.6%	76.3%	60.8%	82.5%	81.5%
特記支出(家賃など)	418,900	418,900	418,900	418,900	418,900	418,900	418,900	418,900	418,900	418,900	418,900	418,900	5,026,800
主な支出	2,936,481	2,172,535	4,822,140	2,239,310	2,186,738	2,086,649	2,272,547	2,278,916	4,872,211	2,248,486	2,181,624	5,980,739	36,278,376
月別収支差額	-217,656	686,431	-1,694,464	348,119	710,482	616,236	-2,181,459	4,145,939	-1,973,152	150,818	717,671	762,739	12,071,704

◆前年度比

	合計	前年度	前年同月比
定員	240	240	100.0%
登録者数(月初)	506	369	137.1%
開所日数	240	240	100.0%
延べ利用者数(B型)	3,190	3,031	105.2%
延べ利用者数(生訓)	846	846	100.0%
見学	13	6	216.7%
体験	5	7	71.4%
入所	5	6	83.3%
退所	6	5	120.0%
授産売上	6,202,526	4,869,363	127.4%
通所率(B型)	39%	41%	94.9%
通所率(生訓)	4.3%	3.7%	117.3%
収入	38,350,080	33,906,040	113.1%
一日当たりの収入	159,792	141,275	113.1%
人件費	31,251,576	27,024,277	115.6%
人件費率	81.5%	79.7%	102.2%
特記支出	5,026,800	5,026,800	100.0%
主な支出	31,251,576	32,051,077	97.5%

◆所感・今後の方針

<利用状況について>

通所率の低さは、登録者の高齢化による体力低下や体調不安による欠席に起因。
終日(午前から午後まで通して)利用するのは5名程で、半日以下の短時間利用者が多い。
ほぼ毎日通所する利用者は3名程(うち1名は1日あたり45分間の利用)。

<収入について>

毎月の収入は300万円を目安に目標としているが、なかなか超えない。
通所のモチベーション自体が無い利用者の登録継続については、抱えずに適切な支援へつないでいく。

<就労支援事業収益について>

授産売上が年間で600万円を超え、平成30年(2018年)頃の売上金額(約626万円)に戻つつあるが、
昨今の原料高騰で工賃金額に反映しにくくなっている。
大型のイベントや注文が減った分、地域のイベントには積極的に参加して、社会参加の場と工賃確保を目指したい。

<運営>

定員変更の検討をしてきたが、紆余曲折あって生活訓練事業の廃止・就労B型1本化でやっと決着した。
今後は就労B型の強みである長期的支援により、居場所として、利用者の地域生活を支えられる運営を目指す。
運営の効率化と十分な職員体制で、利用者のニーズ(相談・同行・作業補助、等)に、対応していきたい。

<支援センターアゼリア>

重点目標	下半期の計画	令和4年度の報告
①地域で安心して生活できるよう支援を行う ・一般相談、計画相談ともに、利用者の地域生活を意識しながら行う。 ・相談支援や対話を通して利用者の様々なニーズを理解する。	上半期の取り組みを継続する。	コロナ予防の為、利用者にも感染防止対策にご協力頂いた。安全対策だけでなく、プログラム予約やミーティング PG の増加についても、その都度、利用者ミーティングにて共有しながら進めることができた。
②安全に配慮した地域交流を行う ・支援センター I 型の利点を活かし利用者と地域が豊かに交流できるイベント等を企画する。	次年度再開予定のプログラムについて検討する。	令和5年1月でアゼリア20周年を迎えた。感染予防を行いながら、記念行事として落語会、館内装飾の充実、オンラインを活用しての周知・啓発等を実施した。
③利用者を中心とした3つのネットワークを作る ・ピアスタッフの視点や関わりを活かしたネットワーク ・ボランティアや地域住民の視点を生かしたネットワーク ・スタッフ等の専門性を生かしたネットワーク	・ピアスタッフの活躍の幅を広げる。 ・利用者の地域での活動の場を広げる。 ・ネットワークに参加する。	・令和4年度にピアスタッフ1名(週2回)を雇用。PGを自身が企画、実施し好評を得た。 ・あぜボラ活動のメニュー増加。中高生 HS における出張 PG や地域のゴミ拾い等に参加 ・とうきょう会議、バレーのネットワーク、地域生活拠点等外部との連携が増えている
④「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」への参加 ・荒川区での「協議の場」に参加する。 ・アゼリアでの個別支援の実践から得られた課題を自立支援協議会及び他会議体へ発信する。	引き続き参加する。	・地域移行部会等への参加、入院患者との定期的なオンライン面談を実施している

利用者支援	下半期の計画	令和4年度の報告
プログラム 利用者ミーティング等を通じて地域のニーズを知り、適切なプログラムを企画・開催する。	会場とオンラインとのハイブリッド講座を実施する。	利用者ミーティングを定期的実施し、利用者からの意見を集約した。講座は会場だけでなくオンラインも活用するなど多くの人の参加を募った

	利用者の安全に配慮した方法で実施する	引き続き感染予防に努める。	手指消毒、検温、館内消毒の実施を行った。 利用者も自己点検できるよう受付票を工夫した
り ず む	参加者の利用目的を幅広く受け止め、安心できる居場所を提供する。	引き続き実施する。	他所機関などからの紹介が増えた。利用者と一緒にプログラムを考えて実施している
一 般 相 談	・ケースに丁寧に応じ必要に応じて事例検討を行う。 ・フロアでの交流や関わりから支援の可能性を検討する。	会議での話し合いや地域ネットワークの参加を継続する。	多様な利用者との対話しながら関わりを持つことを職員間で共有している。ピアスタッフが入ったことでフロアでの関わりが増えている。
相 談 特 定	事例検討や制度の確認等を通して、事業所として計画の質の向上をはかる。	引き続き実施する	事例検討会や相談支援連絡会に参加。情報収集と研鑽に努めた。
	担当者ごとの強み・得意分野を生かせる振り分けを行う。	引き続き実施する	ケースの困りごとは計画会議や全体会議で共有している。

◆令和4年度アゼリア実績報告

常勤換算職員数 7.965

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
実績	地活	新規登録	8	7	11	16	13	6	9	11	8	6	7	4	106
		電話件数	1,897	1,981	1,799	1,743	1,716	1,765	1,725	1,702	1,621	1,553	1,530	1,914	20,946
		面談件数	404	317	326	281	293	283	326	316	317	320	391	271	3,845
		訪問件数	46	46	55	49	44	69	70	54	46	37	34	49	599
		来館者数	459	482	456	454	425	440	446	402	398	445	391	500	5,298
		プログラム実施数	30	30	30	30	29	32	32	35	33	31	37	37	386
		プログラム参加者数	182	195	172	182	159	211	203	216	234	240	291	291	2,576
	特定相談	新規・更新・変更	7	15	11	5	5	8	12	11	10	15	4	19	122
	モニタリング	19	21	28	33	23	23	29	26	22	28	26	26	304	
収入	指定管理費収入	4,583,914	4,583,914	4,583,914	4,583,914	4,583,914	4,583,914	4,583,914	4,583,914	4,583,914	4,583,914	4,583,914	4,583,914	55,006,967	
	特定相談事業収入	483,062	483,062	483,062	483,062	483,062	483,062	483,062	483,062	483,062	483,062	483,062	483,062	5,796,746	
支出	人件費総額	2,812,686	2,758,653	6,630,248	2,935,204	2,945,130	2,881,482	2,960,901	2,976,259	6,957,732	¥2,846,132	¥2,988,910	¥7,400,463	47,093,800	
	指定管理費に占める割合	61.4%	60.2%	144.6%	64.0%	64.2%	62.9%	64.6%	64.9%	151.8%	62.1%	65.2%	161.4%	85.6%	
	人件費	予算	¥3,185,574	¥3,185,574	¥6,371,148	¥3,185,574	¥3,185,574	¥3,185,574	¥3,185,574	¥3,185,574	¥6,371,148	¥3,185,574	¥3,185,574	¥3,885,574	¥45,298,036
		執行額	¥2,812,686	¥2,758,653	¥6,630,248	¥2,935,204	¥2,945,130	¥2,881,482	¥2,960,901	¥2,976,259	¥6,957,732	¥2,846,132	¥2,988,910	¥7,400,463	¥47,093,800
		月ごとの予算執行率	88%	87%	104%	92%	92%	90%	93%	93%	109%	89%	94%	190%	104%
	特記支出		300000	300000	300000	300000	300000	300000	300000	300000	300000	300000	300000	300000	3,600,000
	主な支出		3,112,686	3,058,653	6,930,248	3,235,204	3,245,130	3,181,482	3,260,901	3,276,259	7,257,732	3,146,132	3,288,910	7,700,463	50,693,800
	支出累計		3,112,686	6,171,339	13,101,587	16,336,791	19,581,921	22,763,403	26,024,304	29,300,563	36,558,295	39,704,427	42,993,337	50,693,800	306,342,453
	執行率		6%	11%	24%	30%	36%	41%	47%	53%	66%	72%	78%	92%	92%

◆前年度比

		合計	前年度	前年度比
地活	新規登録	106	102	103.9%
	電話件数	20,946	21,845	95.9%
	面談件数	3,845	3,995	96.2%
	訪問件数	599	585	102.4%
	来館者数	5,298	5,973	88.7%
	プログラム実施数	386	339	113.9%
	プログラム参加者数	2,576	2,110	122.1%
特定相談	新規・更新・変更	122	113	108.0%
	モニタリング	304	285	106.7%
	指定管理費収入	55,006,967	54,218,394	101.5%
	特定相談事業収入	5,796,746	4,680,273	123.9%
	人件費総額	47,093,800	45,494,281	103.5%
	指定管理費に占める割合	85.6%	83.9%	98.0%
常勤	予算	¥45,298,036	¥38,964,920	116.3%
	執行額	¥47,093,800	¥41,536,691	113.4%
	月ごとの予算執行率	104%	107%	97.5%
特記支出		3600000	3600000	100.0%
主な支出		50,693,800	49,094,281	103.3%
主な支出(累計)		306,342,453	282,795,517	108.3%
執行率		92%	91%	101.8%

◆令和4年度の所感

<p><一般相談について> 電話相談も面談も件数は例年並みであるが、電話の1件あたりの時間が20分では収まらない方や、頻回にかけて来る方が多かった。ルールをお伝えしても納得いただけなかったことが増えている。区外利用者が増加傾向。</p>
<p><計画相談について> 相談支援専門員2名増員。本体業務があるので、実数100件程度が担当可能な数と見ている。荒川区から会議等で打診されるケースが増えている。受給者証の発行が遅れており、すぐに請求できないことが多かった。</p>
<p><地域活動支援事業について> コロナ感染防止を徹底のため、飲食プログラムは中止し、定員を設けたプログラムの数を増やして活動を行った。下半期はピアスタッフのプログラムも盛況だった。プログラムのない日はフロア利用者は少ない。</p>
<p><収支について> 概ね予定通りに予算を執行。計画相談については予定した件数より少なかったため、区に返金したが、本部経費とあわせて1000万円弱法人に繰り入れることができた。</p>
<p><その他> コロナ禍の中、令和5年1月でアゼリア20周年を迎えた。20周年記念講演会(落語)や館内装飾など「密にならない祝賀」を職員全体で考えることができた。</p>

<ホームとらむ>

重点目標	下半期の計画	令和4年度の報告
①空室コントロールを行い、待機者を確保できるように調整を行い、運営の安定を目指す。	引き続き空室と待機者確保のコントロールを行い、運営の安定化を目指す	空室状況を周知していくもののなかなか空室を埋めることができない状況や、見学や体験の申し込みがあっても新型コロナの影響でスムーズに進まなかったこともあり、空室を埋めていくことができなかった。
②感染の状況を確認しながらサテライト1室を隔離部屋用として運用し、感染拡大防止の対策を取りながら、支援の質を落とさないように努める。	引き続きサテライト1室は隔離部屋として機能させていく。	サテライト1室をPCR検査結果が出るまでの隔離部屋として使用。感染が拡大して入居者にも陽性者が発生し、病院や療養施設に入れなかった際に隔離部屋として使用することで、他入居者に感染を拡大させずに済んだ。
③地域移行部会で取り組んでいるショートステイの事業化実現に協力する。	上半期の取り組みを継続していく。	下半期も取り組みを継続していったが結果にはつながらなかった
④半期までに業務や支援に必要なマニュアルを作成するとともに、新たな記録ソフトの導入も行って、スムーズに引き継ぎができるように努める。	新たな記録ソフトを使いこなしていけるように、職員間での共有を行う。BCPと安全衛生の引き継ぎを進めていく。	IT導入補助金を活用して新たな記録ソフトを導入し、今後の支援に活用できるよう全職員で習得に励んだ。 BCPと安全衛生の引き継ぎは一部完了。

利用者支援	下半期の計画	令和4年度の報告
個々の性格に合った食事や家事の方法や、様々な社会資源の活用や、やり方を一緒に考え、单身生活に活かしていけるよう実践していく。	引き続き入居者個々に合わせた家事全般の支援を行いながら、感染対策のもと夕食会をつづけていき、单身生活に生かしていけるような個々の支援を行う。	夕食会の回数を週2回と、夕食提供日を週2回で継続した。個々の入居者に合わせた家事全般の支援を行うことで单身生活をイメージし、個々の力と社会資源活用の工夫などができるような支援を行った。

◆令和4年度ホームとらむ実績報告

2.342

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
定員	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
入居者数	5	4	4	4	4	4	4	4	2	3	4	4	46
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
延べ利用者数	150	124	120	126	124	124	124	85	84	69	96	124	1,350
見学	1	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	6
体験	0	0	0	1	0	0	1	1	2	0	0	0	5
入居	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2
退居	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	3
稼働率	71%	57%	57%	58%	57%	59%	57%	40%	39%	32%	49%	57%	53%
共同生活援助収入	1,677,859	1,344,841	1,309,203	1,369,704	1,344,841	1,305,034	1,307,149	1,127,658	1,169,110	1,007,471	1,072,949	1,200,900	15,236,719
うち処遇改善金加算	73,080	64,820	62,744	65,667	64,820	61,932	53,429	29,742	23,745	15,567	34,823	53,383	603,752
うち特定処遇改善加算	16,158	14,314	13,873	14,500	14,314	13,688	11,797	6,577	5,254	3,433	7,702	11,797	133,407
うち自立生活援助収入	40,498	13,059	13,059	13,059	13,059	13,059	13,059	0	46,098	17,449	17,449	17,449	217,297
1日あたりの収入	55,929	43,382	43,640	44,184	43,382	43,501	42,166	37,589	37,713	32,499	38,320	38,739	41,744
職員一人あたりの収入	716,421	574,228	559,011	584,844	574,228	557,231	558,134	481,494	499,193	430,175	458,134	512,767	542,155
人件費	622,793	700,273	1,710,351	682,257	797,018	832,951	811,540	831,036	1,979,722	857,107	866,897	2,182,946	12,874,891
人件費率	37.1%	52.1%	130.6%	49.8%	59.3%	63.8%	62.1%	73.7%	169.3%	85.1%	80.8%	181.8%	87.1%
特記支出	510000	510000	510000	510000	510000	510000	510000	510000	510000	510000	510000	510000	6,120,000
主な支出	1,132,793	1,210,273	2,220,351	1,192,257	1,307,018	1,342,951	1,321,540	1,341,036	2,489,722	1,367,107	1,376,897	2,692,946	18,994,891
月別収支差額(暫定)	545,066	134,568	-911,148	177,447	37,823	-37,917	-14,391	-213,378	-1,320,612	-359,636	-303,948	-1,492,046	-3,758,172

◆前年度比

	合計	前年	前年度比
定員	7	7	100.0%
入居者数	46	60	76.7%
開所日数	365	365	100.0%
延べ利用者数	1,350	1,805	74.8%
見学	6	2	300.0%
体験	5	1	500.0%
入居	2	2	100.0%
退居	3	3	100.0%
稼働率	53%	71%	74.9%
共同生活援助収入	15,236,719	17,230,364	88.4%
うち処遇改善金加算	603,752	537,218	112.4%
うち自立生活援助収入	217,297	130,453	166.6%
1日あたりの収入	41,744	391,347	10.7%
人件費	12,874,891	14,334,253	89.8%
人件費率	87.1%	84.1%	103.6%
特記支出	6120000	5415000	113.0%
主な支出	18,994,891	19,749,253	96.2%

◆令和4年度の所感

<p><共同生活援助の利用状況について> 引き続きコロナ禍のため、サテライトを隔離場所として確保していたことと、空室と募集のタイミングが合わず空室を埋めていくことが難しかった。</p>
<p><自立生活援助の利用状況について> 卒業者がいなかったのと、地域からの依頼もなかったため、件数は少数にとどまった。</p>
<p><給付収入について> コロナ禍3年目で空室埋まらないまま収入が減少し、赤字となってしまった。</p>
<p><支出について> 記録ソフト(5年契約)の購入にあたり助成金を取得でき、概ね半額で導入できた。</p>
<p><その他> 年度初めに常勤職員の逝去があり、悲しみを抱えつつ大きく空いてしまったところを、法人全体でバックアップしてもらえた。</p>